

令和8年1月 22 日

関係者各位

産総研コンソーシアム  
持続性木質資源工業技術研究会  
事務局

## 第53回研究会開催のお知らせ

拝啓 平素より、本研究会活動にご協力いただきありがとうございます。

来たる3月24日(火)に、【別紙1】の要領にて第53回研究会を開催いたします。

今回、取り上げるテーマは、『木質資源の材料活用による炭素貯蔵戦略』です。

脱炭素社会やカーボンニュートラルの実現に向けて、木質資源の炭素固定・貯蔵にも期待が寄せられています。それは、樹木が成長過程で大気中の二酸化炭素を吸収し、その炭素を木質資源として体内に長期間貯め込む(固定する)性質を利用し、建築物や家具などの材料として活用することで、二酸化炭素を大気中に放出させずに隔離し、地球温暖化対策(脱炭素)に貢献する仕組みを利用するものです。最近では、建築物から土木インフラへと部素材用途での高度な利用方法からバイオ炭などの土壌改良剤としての検討も活発になっています。

今回の講演会では、木質資源の材料活用による炭素貯蔵にスポットライトを当てました。カーボンニュートラルである木質資源について、燃料用途を回避して長期利用を可能とする戦略、その先に見えるカーボンネガティブ(二酸化炭素のマイナス排出カウント)の可能性について皆様と考えたいと思います。

本研究会に参加を希望される方は、【別紙2】に記載の Forms から登録をお願い申し上げます。

敬具

### 記

- 【日 時】 令和8年3月24日(火) 13時30分～15時30分
- 【主 催】 産総研コンソーシアム 持続性木質資源工業技術研究会
- 【後 援】 産総研マルチマテリアル研究部門
- 【会 場】 産業技術総合研究所 中部センター OSL 連携会議場
- 【プログラム】 別紙1
- 【参加費】 無料

## プログラム

### 『木質資源の材料活用による炭素貯蔵戦略』

13:30～13:35 開会挨拶

13:35～14:05 『産総研でのバイオ炭研究のご紹介』

近年、CO<sub>2</sub> ネガティブエミッション技術としてバイオ炭が注目されているが、その普及には課題がある。産総研では、多様な専門性を持つチームを組織し、農業利用におけるバイオ炭の高付加価値化に取り組んでおり、ここではその成果を紹介する。

産業技術総合研究所  
ネイチャーポジティブ技術実装研究センター  
生態影響・対策技術評価研究チーム  
主任研究員 佐藤 由也

14:05～14:35 『竹筋コンクリートの再評価と放置竹林を起点とした地域資源活用

—産学民連携による技術的検討と社会実装の試み—

明治・大正期に用いられた竹筋コンクリートを再評価し、放置竹林問題の解消を起点とした持続的な木質資源活用の可能性を検討する。産学民連携による竹材の補強材利用に関する技術的検討と、身障者の参画も含めた資源循環型産業モデルの構築過程を報告する。

日本大学工学部土木工学科  
教授 子田 康弘

----- 休憩 -----

14:45～15:30 『木材を用いた軟弱地盤対策による地中への炭素貯蔵・固定』

木材は地中の地下水位以深では腐朽しないため、軟弱地盤対策として活用することで炭素を地中に貯蔵・固定し続けることができます。本講演では、実用化している工法や開発中の工法、および、それらによる具体的な地中への炭素貯蔵量についてご紹介します。

飛島建設株式会社  
技術研究所 研究開発グループ  
生産システム研究室 GX 領域(地盤基礎分野)  
村田 拓海

産総研コンソーシアム持続性木質資源工業技術研究会  
第53回研究会『木質資源の材料活用による炭素貯蔵戦略』

参加申込み

申込み締切り 令和8年3月20日(金) 正午

申込ページ URL (Forms)

<https://forms.office.com/r/sqJ1kEg2Yi>



《お申込み・お問い合わせ先》

〒463-8560

名古屋市守山区桜坂4丁目 205

国立研究開発法人産業技術総合研究所 中部センター内

産総研コンソーシアム持続性木質資源工業技術研究会 事務局

E-mail: jizokusei-mokushitsu-ml@aist.go.jp